

〔今月の詩編〕

第76篇

神はユダに御自らを示され

イスラエルに御名の大きいなることを示される。

真のいのちの道

フィリポ・カイサリアで、主は弟子たちに「あなたがたはわたしを何者だと言うのか」と聞かれました。すると、弟子のペテロから「あなたはメシア、生ける神の子です」と答えました。主はペテロに「あなたは幸いだ。あなたにこのことを現したのは、人間ではなく、わたしの天の父なのだ」と言われました。更にペテロに「あなたはペテロ。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てる。陰府の力もこれに対抗できない。わたしはあなたに天の国の鍵を授ける。あなたが地上でつなぐことは、天上でもつなげられる。地上で解くことは、天上でも解かれる」と言ってくださったのです。それから、ご自分が必ずエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受けて殺され、三日目に復活することになっていることを打ち明けてくださったのです。

ところが、それを聞いたペテロは「主よ、とんでもないことです。そんなことがあってはなりません」と、主をいさめました。主は「サタン、退け。あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている」と言われたのです。神のことを思わず、この世での自分の命を守って生きながらえるようにと、御心に従って自分を惜しまない道へと進まないように邪魔する、唆す言葉だったのです。主は「わたしについて来たい者は、自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしに従いなさい。自分の命を救いたいと思う者は失うが、わたしのために命を失う者はいのちを得る。たとえ全世界を手に入れても、自分のいのちを失ったら、何の得があるのか。自分のいのちを買い戻すのに、どんな代価を支払えようか」と教えられました。

この後、弟子たちは主の十字架の時が近づきつつある中で、互いに誰が偉いかと議論し合うのです。主は十字架のためにエルサレムに入るのに、エルサレムに入城するとイスラエルの王になると思い、偉い座を期待していたのです。そのような彼らの上に立つものは主の教会ではありません。彼らが治める



ような国も天の国ではありません。「サタン、退け」と言われるようなペテロが、この世で偉くなりたいと願う弟子たちが捨てられなければ、主の教会、天の国の鍵は委ねられないのです。

主はペテロに天の国の鍵を与えると約束された通り、授けてくださいました。どのように授けられたのでしょうか。友のためにご自身を与えられました。真実で混じり気のない十字架によって授けられたのです。ご自身の血と肉によって、授けられたのです。十字架なしの天の国の鍵はありません。

十字架の前にして弟子たちは逃げていきました。ペテロは一人の女中から、「あなたもあのイエスの弟子だろう」と聞かれて、三度、「知らない」と主を否んだのです。その後、彼は凄絶な悲しみと痛み、苦しみを経験するのです。主を裏切り、主と切り離されたところではすべてが空しいものでした。生きていたようで、死んでいるものでした。そのようにして、この世のあらゆる空しい望み、貪りを持つ「古い自分」が死に、捨てられ、新しく生きるペテロに生まれ変わったのです。

使徒ペテロは生涯、人を慈しみ、人のために忍耐し、人を赦し、人のために自分を惜しまない者でした。自分が主から受けたように、主から受けたことが彼の心になったのです。それゆえに彼が憐れむ人を主も憐れみ、主が赦すと思う人をペテロも赦したいと思うし、天の神もそう判断される。すなわち、彼が地上で結ぶと天でも結ばれ、地上で解くと天でも解かれる、天の国の鍵を持つ者となったのです。主はペテロをはじめとする弟子たちの「古い自分」を捨てさせ、ご自身の心を授けてくださいました。揺るがない、永遠に生きる天の国での真のいのちへの道、輝く天の父からの報いを望みとして生きるようにとしてくださいました。私たちも生涯、主イエス、使徒たちについて行きましょう。

(マタイ16・13～28)